



コロナワールドカップ2024 プロボウリング男子新人戦

8月24・25日
コロナキャットボウル中川店

土方捷がラストイヤーに決めた

プロボウリング男子新人戦は、新たに(株)コロナワールドの特別協賛を得て『コロナワールドカップ2024』として、8月24、25の両日、コロナキャットボウル中川店(愛知・名古屋市)を会場に開催され、59期から62期の男子プロ47名によって争われたが、今年が出場資格最終年の土方捷(59期・川崎グランドボウル)が優勝、悲願の初タイトルを獲得した。また64名が出場したアマの部は、吉田大祐選手(稲沢グランドボウル)が優勝を飾った。(主催:(公社)日本プロボウリング協会)



▲「成績が出ない間、いろんなことに取り組んだ」ことが実を結んだ

新人戦とはいえ、今季(この大会前まで)のポイントランキング1位の藤永北斗、2位の大久保雄矢のほか、デビューイヤーで昨年の全日本選手権を制した宮澤拓哉ら、すでにレギュラーツアーで実績十分の実力者が顔を揃えていた。

予選(8G)をリードしたのは、今年43歳でプロ入りしたオールルーキーともいえる鶴見亮剛。「手前がしっかりオイルを感じられて投げやすかった」と、2002(Avg250.25)を打ってトップに立つと、最終日はややペースダウンしたものの、準決勝(5G)、そして8名による決勝ラウンドロビンでもその座を明け渡さず、1位で決勝ステップラダーに進んだ。

鶴見を除くと、ラウンドロビンは1Gごとに目まぐるしく順位が入れ替わったが、「5G目からようやくラインが見えてきた」と、藤永が混戦から抜け出し2位で進出。残る一枠は、5位でポジションマッチを迎えた土方が、「7G目に169とスコアを落として5位まで下がったけど、意外にポイントが離れて



▲今季3勝目を狙った藤永だが「途中からサイドローテーションを強めに入れたり、いろいろアジャストを試みたけど、それでも飛んでくれなかった」

いないなと思ったし、ちょっとインターバルがあって、気持ちを切り替えられた」と、246を打って順位を2つ上げ、3番目の座を確保した。

【3位決定戦】

「藤永プロはビッグゲームを打ってくるだろうなと思ったけど、相手の投球は見ないで、自分のできることに集中した」と土方。一方の藤永

は「練習ボールのときはすごく感じがよくて、レーン選択はどちらでもいかなというぐらいだった」。しかしターキースタート、8フレからフォースなどで256と伸ばした土方に対し、アジャストに苦しんだのは藤永。「5フレぐらいからピンが飛ばなくなって、どうやって飛ばそうかと考えているうちに終わってしま

った」と、今季3勝目はならなかった。

【優勝決定戦】

優勝決定戦は、鶴見が1フレ④⑥⑩スプリットでオープンのスタートとつまずいたのに対し、ストライクスタートの土方は「よく言われるゾーンという

状態に入っていたのかな。これまでになく集中していた」と、4フレまでフォースと伸ばして大きくリード。対する鶴見は「緊張はあまりしなかったけど、うまく投げられなかった」と波に乗れない。終盤レーンの変化に土方はややもたついたが、鶴見は7フレからダブルのあとの9フレは8本カウントで万事休す。土方が222:202で制して、デビュー4年目で初タイトルを手にした。

【アマの部】

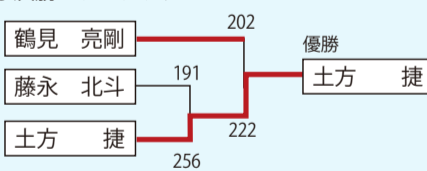
アマの部は、吉田選手と安田洋規選手が優勝決定戦で対戦したが、吉田選手が最後の1投を7本でパーフェクトこそ逃し

たが、1フレから11連発。場内を沸かせるパフォーマンスで決勝した。



▲アマの部優勝の吉田選手「緊張して失投してしまった」と最後の投球が7本でガックリだったが、予選から完全優勝だった

●決勝ステップラダー



●優勝決定戦

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
鶴見 亮剛	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	29	57	77	96	116	144	164	183	202
土方 捷	30	60	89	109	129	157	177	195	203
				9	9	9	9	9	9
				129	157	177	195	203	222



▲「同じレギュラーツアーでレギュラーツアーでも活躍している藤永プロや大久保プロより上にはいけなかったのでそこは前向きにとらえて今後には」と鶴見

優勝・土方捷(今月の表紙)

決勝ステップラダーは、2人は左だったけど、コンディションさえつかめれば、レーンの変化も少ないので、逆にチャンスかなと思った。もう少し速いコンディションを予想していたけど、思っていたよりも変化が強かったので、割れないようなラインどりを意識した。

デビューした1年目はシード入りもできて、順調なスタートが切れたけど、2年目、3年目とラン



▲母親との喜びのツーショット

キングの順位は右肩下がり。5年以内に優勝できなければ、トーナメントプレーヤーに見切りをつけたいといけなかなという

ぐらい、切羽詰まった状況でのこの優勝だったので、本当にうれしい。いつも応援してくれている母親に、優勝する姿を見せられたのもよかった。

これまで不安感とか、ネガティブな思考が強かったけど、最近調子がよかったこともあってこの大会はそれが一切なく、絶対に優勝するぞという気持ちで臨めた。このあとの大会も、すべて優勝するぐらいの気持ちで臨みたい。

優勝ボール: ハンマー ブラックウィドーナイトブレイカー